

## 保育・教育の指導法に関わる基礎的研究

—保育者・教育者の資質能力を育む体験的学修の有用性について—

伊藤憲孝・三藤恭弘

福山平成大学 福祉健康学部  
(こども学科)

E-mail : noritakaito@heisei-u.ac.jp

### 【要旨】

本研究の目的は、保育・教育の指導法の構想、実践に対して、大きく関わる保育者・教育者の資質能力を育むため、体験的な学修の有用性について知見を得ることである。本研究が対象とする保育者・教育者の資質能力は、保育所保育指針や幼稚園教育要領等で示される領域「言葉」及び「表現」である。研究の方法は、稿者らが学生と共同でおこなった文化的活動を事例として取り上げ、その活動に参加した学生の意識をアンケート調査によって質的に分析・考察する。文化的活動の概要としては、野外でおこなう物語の朗読とピアノ演奏によるコンサートである。

本研究を通し、次のようなことが明らかになった。まず、対象となった4人の学生は、領域「言葉」「表現」に示されるような資質能力を獲得できた、あるいは向上させることができたと自覚していた。彼らは、本活動を通して、上記資質能力の向上を、個人として実感していた。また、彼らは、本活動を振り返る中で、保育・教育の実際の場面における指導を想定し、自身の指導力をメタ的に自己評価していた。

研究をまとめると、次のようなことが言える。領域「言葉」「表現」では、子どもたちに対し、「楽しさ」や「美しさ」という価値内容を感じ取る「感覚」や「感性」といった資質能力の育成が求められている。その資質能力を育成する立場である指導者自身にこれらが備わっていないという事態は想定されるべきではない。保育者・教育者自身が「楽しさ」や「美しさ」を味わったという経験を強い実感とともに有していることが、指導者の資質能力として重要だと言える。そしてそのような指導者の資質能力が、保育・教育の指導法の具現を基盤として支えていると言えるだろう。

KEY WORDS : 保育・教育、指導法、資質能力

## 1. はじめに

保育・教育の実践現場において、保育者・教育者が日々の保育・教育の指導法を構想する時、あるいは構想した指導法を実践に移す時、保育者・教育者自身の資質能力はもちろんその指導法に大きく関わる。例えば、ある保育者・教育者がいたとして、非常に弱い資質能力の領域があったとする。当然その領域の指導法は、当の保育者・教育者には構想しにくいであろうし、構想したとしてもそれを指導法として積極的に活用していこうという意欲や、スムーズに活用して行く能力は十分な状態にないと言えるだろう。

保育者・教育者の養成課程における学生の資質能力の育成に関わっては、中央省庁が示す「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」や「教職課程コアカリキュラム」、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」(中央教育審議会答申)等で述べられている。だが、保育・教育の対象者である子どもたちに獲得させたい資質能力から逆算的に、<保育者・教育者に獲得させたい資質能力>を推定し、これを積極的に推進していく必要もあるだろう。

三藤恭弘・伊藤憲孝(2019)では、将来の保育者・教育者である学生の資質能力育成に関して、特に「言葉」「表現」の領域、中でも「言葉に対する感覚」、「豊かな感性」、「感じたこと(中略)を自分なりに表現する」という資質能力の育成について考察し、次のような結論を得ている。

「言葉に対する感覚」、「豊かな感性」、「感じたことを自分なりに表現する」といった資質能力を育むには、感覚、感性の世界で、より高度な次元を味わいたいという意識を学生自身に抱かせる仕掛けが重要である。また、そのような意識を持った学生はこれらの資質能力に対し、大変前向きな意欲と自らがそれらの資質能力を向上させつつあるという自己肯定感を持っていた。

本研究では、三藤・伊藤(2019)で検討した物語と音楽のコラボレート活動(2016年実施)と同様の枠組みを用いた活動(2017年実施)を検討し、保育・教育の指導法の基盤となる保育者・教育者の資質能力の育成について、考察をおこなう。

## 2. 本研究の目的

本研究は、保育・教育の指導法に大きな関わりのある保育者・教育者の資質能力の育成について、体験的学修

の有用性について知見を得ることが目的である。

## 3. 本研究の方法

本研究は事例として稿者らが学生と共同でおこなった文化的活動(2017年実施)を取り上げ、その活動に参加した学生の意識を分析することにより、上記目的を果たす。意識の分析は参加学生に対しておこなったアンケート調査を質的に分析、考察することによっておこなう。

## 4. 活動の概要

### 4.1. 形態

野外でおこなう物語の朗読とピアノ演奏のコンサート

### 4.2. 内容

- (1)伊藤憲孝(稿者)によるピアノ演奏。
- (2)学生3名と三藤恭弘(稿者)による物語「美女と野獣」の朗読と、その物語世界に合わせた伊藤のピアノ演奏。
- (3)学生のオリジナルピアノ曲の演奏。

4.3. 日時：2017年9月2日(土) 午後6:30～7:30

4.4. 場所：福山平成大学13号館前芝生広場

4.5. 会場図：図-1を参照

図-1における上方の長方形は芝生広場を表し、下方の長方形は学舎である13号館1階見取り図を表す。ピアノは1階音楽室の芝生広場側の扉を全開にして、会場向きに設置し、生音だけでは遠くまで聞こえづらいので、マイクで音を拾いスピーカーからも流した。また、朗読者は音楽室内で着席して朗読をおこなった。

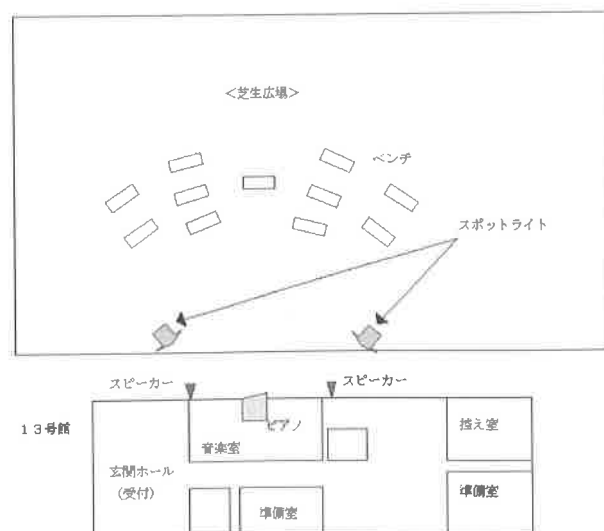


図1 会場の見取り図

4.6. 朗読者：本学学生3名（Aさん、Bさん、Cさん。それぞれのプロフィールについては6節に詳述。）

4.7. 演奏者：伊藤憲孝、本学学生Dさん

4.8. 聴者：地域住民の方々、学生（総数約180名）

4.9. 当日のプログラム

- ①ベートーヴェン：エリーゼのために
- ②リスト：超絶技巧練習曲第11番「夕べの調べ」
- ③Dさんによる演奏：新作初演
- ④ショパン：ノクターン遺作
- ⑤ショパン：幻想即興曲
- ⑥ショパン：ポロネーズ第6番「英雄」
- ⑦朗読×ピアノ：美女と野獣

4.10. 本研究が対象とする内容

上記演目において、本研究が対象とする内容の一つは、③Dさんによる演奏：新作初演である。また、⑦の朗読×ピアノ：美女と野獣も本研究の対象である。⑦はフランスの民話「美女と野獣」に基づき、1991年に制作されたディズニー長編アニメーション作品「美女と野獣」（2017年に実写版が公開）のあらすじを三藤がリライトし、本学学生が朗読するとともに、伊藤が劇中で使用されたアラン・メンケン作曲の作品を演奏し、合わせて物語の進行に伴い即興演奏を行った。

## 5. 活動への参加学生の意識調査の内容

5.1. アンケート実施時期

2018年7月

5.2. 対象者

本活動において朗読をおこなった学生3名とピアノ演奏をおこなった学生1名。

5.3. 質問項目

<質問1> あなたの役割は何をすることでしたか。  
<質問2> この活動を通して、あなたは保育者・教育者の卵として、どのようなことが身についたと感じますか。別紙資料、保育内容「言葉」／「表現」（「幼稚園教育要領」より抜粋）を参考にし、答えてください。  
<質問3> 上記内容以外で、あなたが保育者・教育者の卵として、身についたと思うことを答えて下さい。  
<質問4> 活動を通して、あなたはどんなことが楽しいと感じましたか。

<質問5> 活動を通して、あなたはどんなことに苦労しましたか。

<質問6> 活動を通して、音や言葉に対しての感じ方が変化したと思いますか。

<質問7> 活動を終えて、今後どんなことが課題として残ったと思いましたか。

<質問8> 活動を終えて、今後どんなことをやりたい、学んでみたいと思いましたか。

<質問9> 保育士・幼稚園教諭養成の観点からこの企画を改善するならば、どんなことが考えられますか。

<質問10> 活動を終えて、上記以外で感じたこと、考えたことなど自由に書いて下さい。

5.4. 質問紙に添付した領域「言葉」「表現」についての別紙資料<sup>1</sup>

### 【言葉】

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

#### 1 ねらい

- (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。

#### 2 内容

- (1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。
- (2) したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。
- (3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。
- (4) 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。
- (5) 生活の中で必要な言葉が分かり、使う。
- (6) 親しみをもって日常のあいさつをする。
- (7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。
- (8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。
- (9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- (10) 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。

#### 3 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある

ある。

(1) 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児が教師や他の幼児とかかわることにより心を動かすような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

(2) 幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

(3) 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

(4) 幼児が日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。

#### 【表現】

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

#### 1 ねらい

(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

#### 2 内容

(1) 生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。(2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。(3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。(7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

#### 3 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

(1) 豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々な表現することなどを通して養われるようにすること。

(2) 幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。

(3) 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しむ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

## 6. 活動に対する参加学生の意識調査の分析と考察

本節では、アンケートによって得られた参加学生の意識に対する分析と考察をおこなう。

### 6.1. Aさんの場合

#### 6.1.1. Aさんのデータ

活動時の学年：3年生

活動時の希望職種：保育士、幼稚園教諭

現在の状況：私立こども園保育教諭

活動内の役割：物語の朗読（主人公役）

#### 6.1.2. 意識調査の結果

アンケートの質問と質問に対するAさんの回答は以下のとおりであった。

<質問1> あなたの役割は何をすることでしたか。

(回答) 朗読（ベル）<sup>2</sup>

<質問2> この活動を通して、あなたは保育者・教育者の卵として、どのようなことが身についたと感じますか。別紙資料、保育内容「言葉」／「表現」（「幼稚園教育要領」より抜粋）を参考にして、答えてください。

(回答) 【言葉】登場人物の気持ちを理解し、気持ちを言葉で表現する楽しさを感じる。ねらい(1)、内容(7)(8)(9) 【表現】声の強弱、やさしい声、おこった声、かなしい声などの気持ちのこもった声の変化をつける。ねらい(1)、内容(2)(3)(4)(6)

<質問3> 上記内容以外で、あなたが保育者・教育者の卵として、身についたと思うことを答えて下さい。

(回答) 気持ちを言葉で表現すること。

<質問4> 活動を通して、あなたはどんなことが楽しいと感じましたか。

(回答) 気持ちを言葉で表現すること!! 最初は棒読みだったが、練習することで、だんだんと楽しくなり、気持ちが言葉に表れるようになったことを実感できたこと。ピアノがあることで、とても楽しかった。

<質問5> 活動を通して、あなたはどんなことに苦労しましたか。

(回答) いろんな気持ちを言葉だけで表現すること(表情は伝わらない)。

<質問6> 活動を通して、音や言葉に対しての感じ方が変化したと思いますか。

(回答) 1つ1つの言葉の表現が大切にできるように。

<質問7> 活動を終えて、今後どんなことが課題として残ったと思いましたか。

(回答) もう少しおおげさにすること(感情の入りが少ない)。

<質問8> 活動を終えて、今後どんなことをやってみたい、学んでみたいと思いましたか。

(回答) 他のお話でもやってみたい。

<質問9> 保育士・幼稚園教諭養成の観点からこの企画を改善するならば、どんなことが考えられますか。

(回答) 特になし。

<質問10> 活動を終えて、上記以外で感じたこと、考えたことなど自由に書いて下さい。

(無回答)

### 6.1.3. 意識調査の分析と考察

Aさんは、質問2において、自身が身についたと思う資質能力について、自分自身の言葉以外にも、別紙資料のナンバーを指し示し、回答している。以下にそのナンバーの内容を記す。

【言葉】ねらい(1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。内容(7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。(8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。(9) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。

【表現】ねらい(1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。内容(2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージ

を豊かにする。(3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。

本回答は、これらの領域「言葉」及び「表現」に関わる活動をAさん自身が体験し、これらの資質能力を自身が身につけたと実感したことで、Aさんの中でこれらの「ねらい」や「内容」に対する理解が質的に変化したことを物語っている。

次にAさんの回答文を検討する。回答文全体から読み取れることは、例えば「気持ちを言葉で表現すること!!」、「気持ちを言葉で表現する楽しさを感じること」、「気持ちが言葉に表れるようになったことを実感できた」、「ピアノがあることで、とても楽しかった」、「他のお話もやってみたい」という言葉からわかるように、本活動をAさん自身が楽しみ、味わうことができたという満足感や自身の資質能力の向上に対する肯定的自覚、そして次なる活動への意欲の高まりであろう。保育者・教育者のこのような意識が、指導法を構想し、実践に移す上でいかにどの好影響を与えるか、推し量ることは十分可能である。Aさんは、この充実した体験を、きっと保育・教育の現場で再現しようとするであろう。自分が味わった充実感を根拠に、子どもたちにもこのような体験を味わわせ、言葉や表現の資質能力を身に付けさせたいと願うであろう。その時、理論的な知識や技能も必要にはなるが、指導法を構想し、実現しようとするエネルギーとなるのは、このような保育者・教育者自身の強い実体験の記憶ではないだろうか。そのような意味において、将来の保育者・教育者が保育内容に関わる活動の楽しさを「実感」した経験を有することは、実に重要であると言えるだろう。

### 6.2. Bさんの場合

#### 6.2.1. Bさんのデータ

活動時の学年：3年生

活動時の希望職種：保育士、幼稚園教諭

現在の状況：私立こども園保育教諭

活動内の役割：物語の朗読(登場人物3人分)

#### 6.2.2. 意識調査の結果

アンケートの質問と質問に対するBさんの回答は以下

のとおりであった。

<質問1> あなたの役割は何をすることでしたか。

(回答) 「美女と野獣」に出てくるベルの父親、ポット夫人、ガストンの役をしました。

<質問2> この活動を通して、あなたは保育者・教育者の卵として、どのようなことが身についたと感じますか。別紙資料、保育内容「言葉」／「表現」（「幼稚園教育要領」より抜粋）を参考にして、教えてください。

(回答) 【言葉】物語を通して、想像を巡らせながら台詞を言った経験により、絵本の読み聞かせなどで子どもたちに楽しんでもらえるように工夫をしながら、豊かな表現が持てるような言葉遣いが身についたと感じました。【表現】音楽を通して様々な表現を現す（稿者注：原文ママ）ことの楽しさや、子どもの豊かな感性を育むためにピアノを使って曲を弾き、自分のイメージを動きや言葉などで表現することの楽しさを味わうようにすることが身についたと感じました。

<質問3> 上記内容以外で、あなたが保育者・教育者の卵として、身についたと思うことを教えてください。

(回答) 身近にある環境とふれ合い、それに関した問いかけや語りかけを行うなどの子どもの想像力や表現力などを膨らませるような言葉かけが身についた。

<質問4> 活動を通して、あなたはどんなことが楽しいと感じましたか。

(回答) 「美女と野獣」に出演するキャラの役作りが楽しいと感じた。

<質問5> 活動を通して、あなたはどんなことに苦労しましたか。

(回答) それぞれのキャラに合わせて、高貴なイメージや悪そうな感じなどを表現するために口調を変えることに苦労した。

<質問6> 活動を通して、音や言葉に対しての感じ方が変化したと思いますか。

(回答) 音や言葉は使い方によって楽しくさせたり、怖がらせたりするなどの場面によって様々な表現を生み出すことから感じ方が少し変化したと思います。

<質問7> 活動を終えて、今後どんなことが課題として残ったと思いましたか。

(回答) 今回の活動を振り返って、ピアノを使った保育を実践する際に、子どもたちが楽しく活動に励むためには、どのような工夫をすれば良いか、またピアノを使った表現方法は他にどのようなものがあるのかを学ぶことが課題だと思った。

<質問8> 活動を終えて、今後どんなことをやってみたい、学んでみたいと思いましたか。

(回答) 演劇を行う中で、ピアノを弾く係として、場面ごとに曲調を変えたり、音の強弱をはっきりさせるなどの実践を経験してみたいと思っています。

<質問9> 保育士・幼稚園教諭養成の観点からこの企画を改善するならば、どんなことが考えられますか。

(回答) 特にありません。

<質問10> 活動を終えて、上記以外で感じたこと、考えたことなど自由に書いて下さい。

(回答) 特にありません。

### 6.2.3. 意識調査の分析と考察

Bさんの回答を読むと、一個人としての視点もあるが、保育者・教育者としての意識が強い回答も見受けられる。先に前者について取り上げる。

質問4でBさんは、「出演するキャラの役作りが楽しいと感じた」と述べている、一方質問5では、「それぞれのキャラに合わせて高貴なイメージや悪そうな感じなどを表現するために口調を変えることに苦労した」とも述べている。つまり、「キャラづくり」に対して一個人として喜びも苦労も感じたと述べている。また、質問6では音や言葉に対する感じ方の変化について「場面によって様々な表現を生み出すことから感じ方が少し変化したと思います」と述べ、本活動を通して自分自身に変化、進化があったことを自覚している。

次に、後者についてであるが、Bさんは質問の多くの項目で「保育者・教育者」として「子どもたちをどう育てるか」という視点で回答している。例えば質問2【言葉】においては、「絵本の読み聞かせなどで子どもたちに楽しんでもらえるように工夫をしながら、豊かな表現が持てるような言葉遣いが身についた」（下線稿者）と述べている。また、質問2【表現】では、「表現を現す（稿者注：原文ママ）ことの楽しさや子どもの豊かな感性を育むために」と述べ、質問3では、「子どもの想像力や表現力などを膨らませるような言葉かけが身についた」と述べ、質問7では「ピアノを使った保育を実践する際に」とか、「子どもたちが楽しく活動に励むためには、どのような工夫をすれば良いか」、「ピアノを使った表現方法は他にどのようなものがあるのかを学ぶことが課題」（下線稿者）などと述べている。これらは、将来の保育者・教育者を目指すBさん（アンケート回答時点）が、本活動を通して、「保育・教育の指導法」の構

想を練ったり、それを実践に移すにあたって自分自身の現状の資質能力がどのような状態にあるのかということの評価し、改善する上で大きく機能していることを示している。

### 6.3. Cさんの場合

#### 6.3.1. Cさんのデータ

活動時の学年：3年生

活動時の希望職種：小学校教諭、幼稚園教諭

現在の状況：公立小学校教諭

活動内の役割：物語の朗読（語り手）

#### 6.3.2. 意識調査の結果

アンケートの質問と質問に対するCさんの回答は以下のとおりであった。

<質問1> あなたの役割は何をすることでしたか。

（回答）朗読（語り・ナレーション）

<質問2> この活動を通して、あなたは保育者・教育者の卵として、どのようなことが身についたと感じますか。別紙資料、保育内容「言葉」／「表現」（「幼稚園教育要領」より抜粋）を参考にして、答えてください。

（回答）【言葉】2.内容（4）（7）（8）（9）

【表現】2.内容（2）（4）（8）

<質問3> 上記内容以外で、あなたが保育者・教育者の卵として、身についたと思うことを答えて下さい。

（回答）場面の様子に合わせて、声のスピードや間の取り方を工夫すること。

<質問4> 活動を通して、あなたはどんなことが楽しいと感じましたか。

（回答）言葉と音楽を融合させて、一つの作品を完成させたこと。

<質問5> 活動を通して、あなたはどんなことに苦労しましたか。

（回答）・ピアノのタイミングを覚えて自分の台詞を言うこと。

・場面ごとに間の取り方や声のスピードを工夫すること。

<質問6> 活動を通して、音や言葉に対しての感じ方が変化したと思いますか。

（回答）・映像や絵がなくても、表現の仕方を工夫することによって、その場面の様子を伝えることができる。

<質問7> 活動を終えて、今後どんなことが課題として残ったと思いましたか。

（回答）・声の抑揚、言葉の意味が伝わるように言葉のまとまりを意識して表現する。

<質問8> 活動を終えて、今後どんなことをやってみたい、学んでみたいと思いましたか。

（無回答）

<質問9> 保育士・幼稚園教諭養成の観点からこの企画を改善するならば、どんなことが考えられますか。

（無回答）

<質問10> 活動を終えて、上記以外で感じたこと、考えたことなど自由に書いてみて下さい。

（無回答）

#### 6.3.3. 意識調査の分析と考察

Cさんは、質問の2において、自身が身についたと思う資質能力について、別紙資料のナンバーを指し示し、回答している。以下にそのナンバーの内容を記す。

【言葉】内容（4）人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。（7）生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。（8）いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。（9）絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。

【表現】内容（2）生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。（4）感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。

（8）自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

下線を引いた項目は、Aさんも挙げていた項目である。つまり両者は、本活動を「美しいものや心を動かす出来事」として感じ、「言葉の楽しさや美しさに気付く」ことが出来、「イメージや言葉を豊かにする」ような体験をするとともに、そのような資質能力が身についたと捉えている。

また、Cさんは質問3において、自身が「身についたこと」として、「場面の様子に合わせて、声のスピードや間の取り方を工夫すること。」も挙げている。これは【言葉】【表現】の内容を子どもたちが身につける上で必要となる「美しいものや心を動かす出来事」を、保育者・教育者として提示する上で必要な資質能力を本人が自身の資質能力として意識したものと言えるだろう。それは質問4における回答「言葉と音楽を融合させて、一つの作品を完成させたこと。」、質問5にお

る回答「・ピアノのタイミングを覚えて自分の台詞を言うこと。・場面ごとに間の取り方や声のスピードを工夫すること。」、質問7における回答「・声の抑揚、言葉の意味が伝わるように言葉のまとまりを意識して表現する。」とも関わってくる。完成度の高いものを提示する保育者・教育者の資質能力や指導法が「美しいものや心を動かす出来事」を実現し、初めて領域「言葉」「表現」の求める要素が指導として高い次元で機能する。言うまでもなく指導者の資質能力は指導法を大きく支えている。その資質能力を育てる学修として、本活動は有効に機能したということをこれらの回答は示している。

Cさんはさらに、自身の資質能力の変化として質問6において「・映像や絵がなくても、表現の仕方を工夫することによって、その場面の様子を伝えることができる。」とも答えている。この回答からは、Cさんが「・映像や絵がなくても、（中略）伝えることができる」ということを再認識し、自身のそのような資質能力の変化、進化を自覚したということがわかる。それは保育者・教育者として自身の資質能力への自覚の深まりであり、そのような体験的自覚は、領域「言葉」「表現」の指導法構想とその実現に深く関わるであろう。

#### 6.4. Dさんの場合

##### 6.4.1. Dさんのデータ

活動時の学年：4年生

活動時の希望職種：社会福祉施設職員、保育士、幼稚園教諭

現在の状況：社会福祉施設職員

活動内の役割：自身の作品の作曲および演奏

##### 6.4.2. 意識調査の結果

アンケートの質問と質問に対するDさんの回答は以下のとおりであった。

<質問1> あなたの役割は何をすることでしたか。

(回答) 演奏者

<質問2> この活動を通して、あなたは保育者・教育者の卵として、どのようなことが身についたと感じますか。別紙資料、保育内容「言葉」／「表現」（「幼稚園教育要領」より抜粋）を参考にして、答えてください。

(回答) 【言葉】作曲を通して自分の思いを言葉に出して言えるようになりました。曲のイメージやケルト風にするための音楽理論をゼミの教授に伝えられるようになりました。

【表現】私はケルト音楽を想像して自分なりに曲を作

りました。イメージとしては静かで幻想的な曲にしたいと思っていました。コンサートで曲を演奏して観客の方に題名のアンケートをとりましたが多くの人が幻想だったり森や雪といったワードを使っており、自分のイメージと近いものを観客の方も感じてくださったことに驚きと感激を受けました。曲を作ることで様々な刺激を受けました。またケルト風にはどうしたらいいのかを試行錯誤することでより感性が豊かになったような気がしました。

<質問3> 上記内容以外で、あなたが保育者・教育者の卵として、身についたと思うことを答えて下さい。

(回答) 自信と意欲

<質問4> 活動を通して、あなたはどんなことが楽しいと感じましたか。

(回答) 作曲した曲を観客の方に聴いてもらって拍手をもらったときに楽しいと感じた。

<質問5> 活動を通して、あなたはどんなことに苦労しましたか。

(回答) 曲のイメージが出来ず、曲の続きが作れなかった時。

<質問6> 活動を通して、音や言葉に対しての感じ方が変化したと思いますか。

(回答) シンセサイザーにある音を適当に鳴らして、そこからいいフレーズが見つかる作曲したくなった。

<質問7> 活動を終えて、今後どんなことが課題として残ったと思いましたか。

(回答) 頭の中でこんな風に作りたいと思っても腕がついていかないこと

<質問8> 活動を終えて、今後どんなことをやってみたい、学んでみたいと思いましたか。

(回答) 今後も好きなきときに作曲を続けていきたいです。

<質問9> 保育士・幼稚園教諭養成の観点からこの企画を改善するならば、どんなことが考えられますか。

(回答) 子供が来ても楽しめるようなことを増やす

<質問10> 活動を終えて、上記以外で感じたこと、考えたことなど自由に書いてみて下さい。

(回答) 特になし

##### 6.4.3. 意識調査の分析と考察

Dさんの回答を読むと、自身で作曲した作品によって、思い描いたイメージを観客と共有できた喜び、ま



たそのことによる創作への喜びを感じていたことがわかる。そのことは、Dさんが質問3で、保育者・教育者の卵として「自信と意欲」が身についたと感じ、質問4で「拍手をもらったときに楽しいと思った」と、回答していることから明らかである。質問6では、「シンセサイザーにある音を適当に鳴らして、そこからいいフレーズがみつかると作曲をしたくなった」と答えているように、身近にある体験がDさんの創作意欲を高め、「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」ことへと繋がったことがわかる。本研究の対象者で、作曲に取り組んだ学生はDさんのみであったが、音楽の創作活動も保育者・教育者の資質能力育成に対し有効に機能し、本人の意欲を高め成長を促していると言える。

一方で、作品の創作過程は決して順風満帆ではなく、自己イメージ実現への試行錯誤を通してDさんの内面が変化したことも窺える。質問2【表現】で、「曲を作曲することで様々な刺激を受けました。またケルト風にはどうしたらいいのかを試行錯誤することでより感性が豊かになったような気がしました」と答えているように、まさにこの試行錯誤を通して、感性が豊かになりつつあることをDさんは体現したのである。質問2【言葉】の回答からは、自身がイメージした響きやメロディーを他者に的確に伝えられるようになったことが窺え、音という実体のないものを言語化する能力が育まれたことがわかる。

このような創作過程を経て完成したDさんの作品は、シンセサイザーで事前に録音した音源に、ピアノを同時に演奏する編成となった。Dさんに完成した作品に題名をつけるよう促したところ、「自身が作品に投影したイメージだけでなく、聴いてくださった方々のイメージを含む題名にしたい」とのことであったため、当日ご来場くださった観客より題目アンケートを集計し、その後Dさんのイメージと重なるものを選んでもらうこととした。題目アンケートは全46題寄せられ、大別すると自然に関わるものと、幻想的なイメージを抱いたものがあった。自然に関わる題目には、「のぼる月」「芝生にて…虫と音の舞踏会」「森の情景」「春の少女」「深い森を想う」「宇宙(そら)」「夜明けの空」「暁の大地」などがあり、幻想的なイメージを抱いた題目には、「幻想夜空のピアノニッシモ」「幻想曲、FANTASY、幻想」「架空世界～光の粒～」「悠久の祈り」などが挙げられる。その中からDさんは「深い森を想う」を題目と

して決定し、後日ウェブサイトにて公表した。

つまりDさんの創作活動は、作曲し発表し終結したのではない。その後も観客から寄せられた題目を通して、「いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。」ことが深められ、その後「様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう」ことへと繋がって完結したのである。このように実践的な活動を通して、初めて領域「言葉」「表現」の求める要素を高い次元へと導くことが出来ると言えるだろう。指導者の資質能力と指導法に密接な関りがあることは言うまでもないが、Dさんの例からも資質能力を育てる学修として、体験的な活動は有効に機能したということを示している。

## 7. まとめ

前節において各学生の意識調査に対する個別の考察をおこなった。本節では、研究の目的を踏まえ、保育・教育の指導法に大きく関わる保育者・教育者の資質能力の育成について、体験的学修の有用性について知見を得る。

まず、4人の学生のアンケートに対する回答から共通して読み取れたのは、領域【言葉】【表現】に示されるような資質能力を、獲得できた、あるいは向上させることができたことと自己評価していることである。彼らは、本活動を通して、領域【言葉】【表現】に示されるような資質能力の向上を、個人として自身が味わい、実感した。その実感は今後、指導法の構想、実践に対して大きな自信になるとともに、様々な判断の有力な根拠になるだろう。指導者が体験的学修を経験することは、資質能力の向上を通して、指導法の構想と実践に大きく関わっているとと言えるだろう。

次に、4人の学生の中で特にBさんに顕著であったが、学生たちは、本活動を振り返る中で、指導の実際場面を想定して自身の指導力をメタ的に振り返り、自己評価へと導かれていった。つまり、体験的学習は指導者として現状の自身の資質能力がどうなのかということ、学生たちに意識させたのである。この点も体験的学修の有用な点であるだろう。

総じて言えることであるが、領域【言葉】【表現】には「美しさ」や「楽しさ」という価値内容を感じ取る・「感覚」や「感性」といった資質能力の育成が求められている。その求められる資質能力を育成する指導者の側にこれらが備わっていないことは状況には無理がある。

AさんとCさんが共通して挙げていた領域内容に「言葉の楽しさや美しさに気付く」、「美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」といったものがあった。子どもたちが「言葉の美しさ」に気付いたり、心を動かされたりするためには、保育者・教育者の指導法の工夫、あるいは指導の能力は欠かせない。「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう」活動においても同様である。領域【言葉】【表現】それぞれの「ねらい」にもあるように、「言葉で表現する楽しさを味わう」、「伝え合う喜びを味わう」、「絵本や物語などに親しみ、(中略)心を通わせる」、「美しさなどに対する豊かな感性を持つ」、「イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」などの目的を達成するためには、保育者・教育者の指導に関わる資質能力と、指導法の構想、実践が重要である。その指導の構想や実践を支えるものは保育者・教育者の資質であり、能力である。それらは体験的学修を経験せずして身につけることは難しいであろう。特に子どもたちが「言葉で表現する楽しさ」を味わったり、「美しさなどに対する豊かな感性」をもったりする指導をする上で、保育者・教育者自身がそのような「楽しさ」「美しさ」を感じたことがない、体験的に知らないということがあり得るだろうか。指導者も知らない精神的な価値内容をその指導者が指導できるとは思えない。保育者・教育者自身が「楽しさ」「美しさ」を感じるといった経験を強い実感とともに有していることが資質能力として重要だと言える。そして、そのような資質能力が、保育・教育の指導法の具現を基盤として支えていると言えるだろう。

---

<sup>1</sup> 平成20年版幼稚園教育要領より

<sup>2</sup> 「ベル」は物語「美女と野獣」の主人公の名前

## Basic research on teaching methods for childcare and education

—Usefulness of experiential learning to nurture the qualities of nursery teachers and educators—

Noritaka ITO, Yasuhiro MITOH  
Department of Childhood Education,  
Faculty of Welfare and Health Science,  
Fukuyama Heisei University

### Abstract

The purpose of this study is to obtain knowledge about the usefulness of experiential learning in order to clarify the concepts and teaching methods of childcare teachers and educators involved in childcare education. The qualifications of nursery teachers and educators that are the subject of this study involve the study of “language” and “expression” indicated in nursery school guidelines and kindergarten education guidelines. The research method is based on a case study of cultural activities conducted by the authors in collaboration with students, which qualitatively analyzes and considers the consciousness of the students who participated in the activities through a questionnaire survey. The outline of the cultural activities is in the form of concerts involving the reading of stories and playing the piano outdoors.

Through this study, the following became clear. First, the four students who were targeted were aware that they were able to acquire or improve the qualities shown in the domain “language” and “expression”. Through these activities, they felt personal improvement of the above-mentioned qualities. In addition, they looked back on this activity and assumed self-assessment of their leadership in a metaphorical manner, assuming guidance in practical situations of childcare and education.

The research can be summarized as follows. In the areas of “language” and “expression”, children are required to develop qualities such as “sense” and “sensitivity” that capture the value of “fun” and “beauty”. It should not be assumed that the leader who is in the position to develop the qualification ability does not have these qualities. It can be said that it is important as a qualification ability of the instructor that the childcare teacher and the educator himself have experienced “fun” and “beauty” with strong feeling. It should also be stressed that the qualities of such leaders are based on the implementation of teaching methods for childcare and education taken up in this paper.

KEY WORDS: childcare / education, teaching methods, qualities